

期待に応える 安心の医療を

医療の質・安全管理部長
医療の質・安全学講座教授

小松 康宏
Komatsu Yasuhiro

質の「高い医療とは何でしょう。」「最先端の手術」や「神の手」などをイメージしがちですが、答えは「国内で当然できる医療（標準的な医療）が、実際に提供されていること」、言い換えれば「患者さんが期待している医療と提供された医療が限りなく近いこと」です。一方、患者さんの取り違えや院内感染が起るとは誰も思ってもいません。医療安全は最低限の医療の質ともいえません。

ここ十年、国際的な医療分野のキーワードが二つあります。一つは「SDM（シエード・デザイン・メーカーング）」治療法を選ぶとき、医療者は医学的な情報を、患者は価値観や自分にとって大切なものを伝え、話し合っ

決めるという考え方です。もう一つの「ペイシエント・センタードネス（患者中心、患者本位）」は、患者さんにとって一番価値ある治療法は何かという視点を持つこと。いずれも大事な概念で、日本でも普及させなければなりません。

前勤務先の聖路加国際病院（東京都中央区）は2012年に国際的な医療機能評価認証機関であるJCIの認証を取得し、15年に更新しました。認証は世界基準の質を担保し、安全な医療を提供している施設に与えられるものです。取得に向けて、当初から責任者としてQI（医療の質改善）センター長を務めてきました。

で、日本の医療機関は7、8割の項目では基準をはるかに超えていると感じています。手を付けてこなかった領域もあります。例えば必須クリア項目の「国際患者安全目標」です。患者誤認を防ぐために処置の前には患者さんに「氏名と生年月日」を必ず名乗ってもらう、医療スタッフが確認します。患者さんは頭では理解してくれませんが、実際には「顔見知りの医師の前で」何度も同じ事を繰り返すことに抵抗感があったり、不満を抱く人もいます。習慣になるまで時間はかかりませんが、必要なことです。

医療事故を受けて、群馬大が進めている改革プログラムの最優先項目の一つが、学生に対する国際水準の医療の質・安全教育です。医療の質と安全という二つの領域を併せた講座は、画期的なものです。病院全体で積極的に行われている講習会に、今後は国際基準のチーム医療推進の研修も導入できればと考えています。

**学生への国際水準の教育が
改革プログラムの最優先項目**



全国の国公立大学に先駆けて群馬大は「医療の質・安全学講座」を大学院医学系研究科に開設した。医療事故を受けて大学が進めている改革の柱の一つだ。

11月1日付で前聖路加国際病院副院長の小松康宏さんが同講座の教授に就任。群馬大病院の医療の質・安全管理部長を兼務し、国際基準の教育と医療の実践を推進する。



医療の質・安全管理部で打ち合わせ

医師、看護師、薬剤師がそろう医療の質・安全管理部のスタッフ（前列）と医事課医療安全係の職員。情報を交換しながら研修会の準備などを進めている

理念「大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る」

基本方針
安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。



群馬大医学部附属病院

前橋市昭和町3-39-15 TEL.027-220-7111(代表)

<http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>